【今週の注目疾患】

≪つつが虫病≫

2026 年第 45 週に県内医療機関から 3 例の届出があり、本年の累計は 12 例となった（図 1）。県内では、例年 11 月頃から翌 1 月頃にかけて届出数が増加する傾向にあり（図 2）、注意が必要である。

図1：2021年から2026年第45週までのつつが虫病診断年別届出数（n=322）

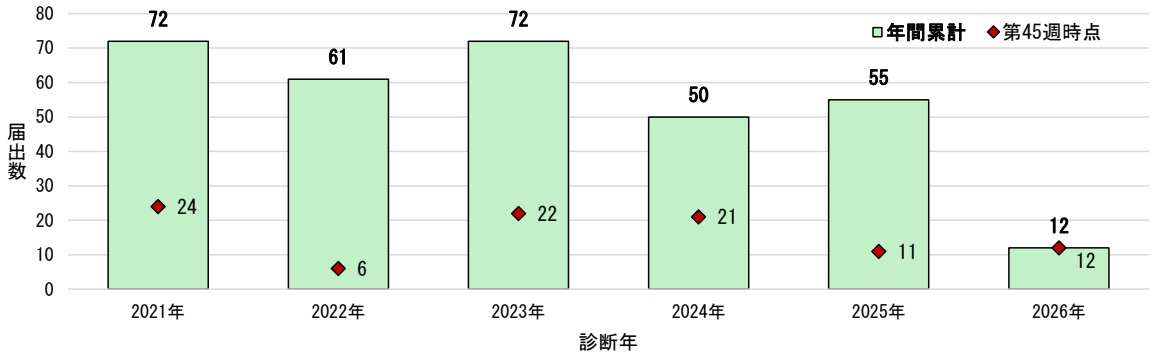
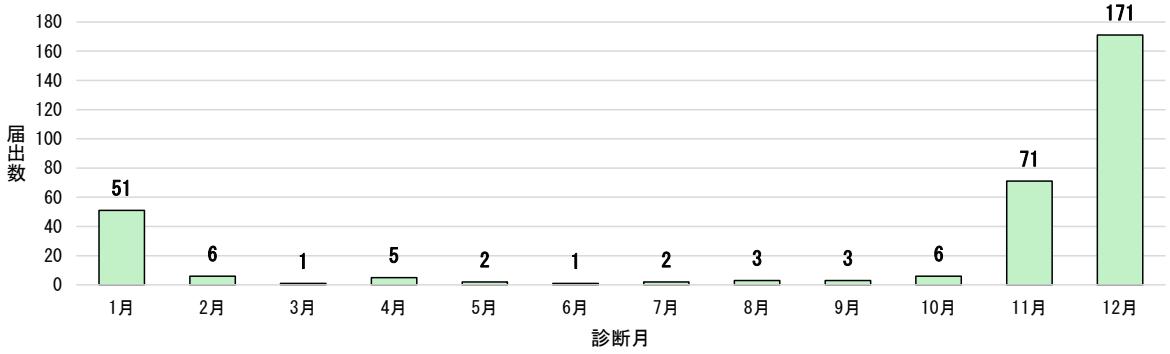


図2：2021年から2026年第45週までのつつが虫病診断月別届出数（n=322）



2021 年から 2026 年第 45 週までに届出のあった 322 例の概要は以下のとおり。

性別は、男性 189 例（59%）、女性 133 例（41%）であった。年齢階級別は、70 代が 132 例（41%）と最も多く、次いで 80 歳以上 72 例（22%）、60 代 64 例（20%）であり、60 代以上が全体の 8 割以上を占めた。推定感染地域は県南部が多いが、他の地域でも発生がみられている（表）。

表：2021年から2026年第45週までの県内つつが虫病推定感染地域別届出数

保健所地域	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	総計
安房	39	30	34	25	33	7	168
夷隅	17	9	10	5	6	1	48
君津	4	4	4	5	3		20
市原	1	7	5	1	3		17
長生			3	1	2	1	7
印旛			2	4			6
海匝	2	1	2				5
山武		2	1		1	1	5
香取	3						3
千葉市			1				1
船橋市			1				1
県内（市町村の記載なし）	5	7	6	6	5	2	31
県外	1	1			2		4
海外			1	1			2
不明			2	2			4
総計	72	61	72	50	55	12	322

つつが虫病の病原体は *Orientia tsutsugamushi* と呼ばれるリケッチアで、ダニ類の一種であるツツガムシが媒介する。わが国で本菌を媒介するツツガムシは主に 3 種類であり、その一部（約 0.1%から 3%）が病原体を保有している [1)]。

ヒトは病原体を保有するツツガムシに刺咬されると菌に感染する。ツツガムシは通常 1 日から 2 日程度皮膚に吸着し、病原体がヒトへ移行するにはおよそ 6 時間以上が必要とされている [1)]。

潜伏期間は 5 日から 14 日で、典型的な症例では高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なツツガムシの刺し口（黒色痂疲）がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになる。また、患者の多くは倦怠感、頭痛を訴え、患者の半数には刺し口近傍の所属リンパ節、あるいは全身のリンパ節の腫脹がみられる [1)]。

有効な抗菌薬（第一選択薬はテトラサイクリン系）がありながら、なおも死亡例が報告されているため、農作業等の野外活動歴やダニの刺咬歴などがある場合は、早期に本症を疑い、適切な診断・治療を行うことが重要である [1)]。

本疾患を予防するワクチンはないため、ダニの刺咬を防ぐことが極めて重要となる。農作業や草刈り、キャンプやハイキング等で山林や草むら等に立ち入る際には、以下の対策をとる [1-3)]。

(1)長袖長ズボンなど肌の露出が少ない服装にする
(2)忌避剤（防虫スプレー）を使用する
(3)地面に直接座らずにレジャーシート等の敷物を使用する
(4)帰宅後はすぐに着替え、洗濯する
(5)帰宅後はすぐに入浴する

■参考・引用

1)国立健康危機管理研究機構：IDWR ダニ媒介感染症：つつが虫病・日本紅斑熱
https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/tsutsugamushi-m/tsutsugamushi-idwrc/10682-idwrc-2136t.html
2)千葉県衛生研究所：つつが虫病に注意!
https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/eiseikenkyuu/virus/documents/tsutsugamushi.pdf
3)千葉県健康福祉部健康福祉政策課：ダニ媒介感染症について
https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/tick.html